

●資料

包括システムによるロールシャッハテストにおける 16歳以上の非行少年の記述統計資料

Descriptive Statistical Rorschach data of Juvenile Delinquents who are 16 years and up

服部 元喜 浦川 忠久 酒井 宏晋
(東京家庭裁判所) (東京家庭裁判所) (神戸家庭裁判所)

Motoki Hattori (Tokyo family court)
Tadahisa Urakawa (Tokyo family court)
Hironobu Sakai (Kobe family court)

要 旨

本資料においては、非行を犯して少年鑑別所に入所した16歳以上19歳以下の少年55名に対して包括システムによるロールシャッハテストを施行し、反応拒否が生じた2名を除いた53名についての主要変数、主な指標についての記述統計を呈示した。

Abstract

The Rorschach data administered by Comprehensive System were collected from the 55 juvenile delinquents (aged from 16 to 19-years-old) during their admission in the Juvenile Classification Office. Two of them were excluded due to their Rejection of responses. We describe their statistical data of major variables and index shown in their 53 Rorschach records.

キーワード：非行少年，包括システム，ロールシャッハテスト

key words : Juvenile Delinquent, Comprehensive System, Rorschach test

I. はじめに

筆者らは家庭裁判所調査官として非行少年の心理アセスメントに携わっているが、アセスメント手法の一つとして、包括システムによるロールシャッハテストを活用することがある。包括システムの解釈においては、被検者の示すロールシャッハテストの各変数について、非患者群や統合失調症群といったある集団の標準

データと比較する作業が有用なのは言うまでもない。非行少年の場合も同様であり、少年が非行に至った心理学的背景を理解し、更生への方策を考えるためには、非行少年のロールシャッハテストのデータを相当数集積した標準データが参考になると考えられる。しかし、包括システムを用いて非行少年のロールシャッハ反応を多数収集した資料は意外に少ない。

*1) 米国の研究については藤岡 (1997) によった。

米国においてはExner & Weiner (1995)*1) がDSM-IIIで攻撃的非行と診断された12～

16歳の140人のロールシャッハデータを収集し、①距離のある、居心地の悪い人間関係 ($T=0, COP=0, H<2, HVI=Yes$ が多い、孤立指標が高い)、②否定的感情とその不適切な表現 ($CF+C>FC, C>0, S>0$ が多い)、③狭くて硬い、人と異なる歪んだものの見方 ($X\%$ が高い、 $Xu\%>20, P<4, L>.99$ が多い)、④ストレスの感じなさ (FM が少ない、 FD が少ない、 $AdjD>0$ が多い)、⑤多くの抑うつの特徴や苦悩感を示す ($DEPI \geq 5$ が多い、 C' が多い、色彩濃淡ブレンドが多い、 MOR が多い、 V が多い) という特徴があることを示している。Gacono & Meloy (1994)も、カリフォルニア州およびアイオワ州の施設で13～17歳の素行障害^{*2)}者100人のロールシャッハデータを収集し、大筋でExnerらの研究と同様の結果を得ている。ただし、これらはあくまで米国のデータであり、対象も攻撃的非行や素行障害の少年に限定されているので、わが国の非行少年一般にそのまま適用することには疑問がある。

わが国においては、今村ら(1993)が関東地方の少年鑑別所に入所した14～15歳の中学生105人のデータを収集し、一般中学生87人のデータと比較している。その結果、①情報処理過程について、非行群はハイラムダの者が多く、一般群はHVI陽性の者が多い、②認知的媒介過程について、非行群の方が $X+\%$ が高く、 $X-\%, S-\%$ が低い、③思考について、非行群の方がALOGが高く、一般群の方がM-が高く、 $Mp>Ma$ の者が多い、④統制について、非行群の方がFM, m, Vが少なくこれに伴いesと濃淡反応が低い、⑤感情について、一般群の方がFC優位でありながら $C>0$ の者が多くS, 色彩濃淡反応も多い、⑥対人関係について、一般群の方がpassive優位で、孤立指標、全人間反応、

Hd, Adが多く、 $SumT=0$ の者が多い ⑦自己知覚について、非行群の方がFDが少なく、鏡映反応を出す者が少ない、⑧一般群の方がSCZI陽性の者が多い、という結果を得ている。浅野(2005)も鑑別所に入所した中学生と一般中学生の比較を試みているが、非行少年のデータ数が15名と少なく、統計的検定も行われていない。

これらの研究は、非行を犯した中学生と一般の中学生のロールシャッハ反応を比較する研究であり、家庭裁判所や少年鑑別所で扱う非行少年の約6割を占める16～19歳の少年については、公開されているデータは見あたらない状況である。そこで、本資料においては、非行を犯して少年鑑別所に入所した16歳以上19歳以下の少年53名について、包括システムによるロールシャッハテストの記述統計資料を呈示することとした。

II. 方法

1. 対象者

2004年4月から2005年10月の間に3つの県の少年鑑別所に入所し、共同研究者3名が調査を担当した、16歳以上19歳以下の少年55名に包括システムによるロールシャッハテストを実施した。外国人、精神疾患や知的障害のある者は対象に含めなかった。55名のうち反応拒否が生じた者2名は除外し、53名(男性46名、女性7名、平均年齢17.4歳)のプロトコルを本資料の対象とした。

2. テスト状況, テスター

テスターは共同研究者3名で、すべて家庭裁判所調査官である。テスターは、EJAの主催する講習会で少なくとも初中級レベルを修了し、研究開始時点で包括システムによるロールシャッハテストのテスターとして3年以上の経験を有していた。

すべての対象者に対して、少年鑑別所入所中

*2)素行障害(Conduct Disorder)：旧訳は行為障害

表 1-1 非行少年の記述統計 (n=53)

変数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	頻度	中央値	最頻値	歪度	尖度
年齢	17.40	1.10	16.00	19.00	53	17.00	17.00	0.23	- 1.24
R	23.04	7.91	14.00	57.00	53	21.00	16.00	1.91	5.54
W	11.32	4.81	4.00	27.00	53	11.00	8.00	1.21	1.62
D	8.21	5.25	1.00	23.00	53	7.00	6.00	1.28	1.39
Dd	3.51	2.62	0.00	13.00	50	3.00	2.00	1.28	2.23
S	3.11	2.67	0.00	17.00	47	3.00	3.00	2.83	13.44
DQ +	4.54	2.74	0.00	10.00	50	4.50	3.00	0.17	- 0.99
DQo	16.51	7.12	5.00	45.00	53	15.00	13.00	1.56	4.02
DQv	1.64	1.35	0.00	5.00	41	1.00	1.00	0.60	- 0.42
DQv/+	0.43	0.69	0.00	3.00	18	0.00	0.00	1.68	2.79
FQx+	0.02	0.14	0.00	1.00	1	0.00	0.00	7.28	53.00
FQxo	10.06	3.72	3.00	24.00	53	9.00	9.00	1.50	3.71
FQxu	6.02	2.89	0.00	16.00	52	5.00	5.00	0.83	1.76
FQx-	6.81	3.91	1.00	19.00	53	6.00	5.00	1.17	1.31
FQxNone	0.13	0.39	0.00	2.00	6	0.00	0.00	3.16	10.27
MQ +	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00	0.00	-	-
MQo	1.42	1.36	0.00	6.00	37	1.00	1.00	1.03	1.08
MQu	0.57	0.93	0.00	4.00	19	0.00	0.00	1.88	3.44
MQ-	0.81	1.06	0.00	4.00	25	0.00	0.00	1.31	1.34
MQNone	0.04	0.19	0.00	1.00	2	0.00	0.00	4.99	23.84
S-	1.66	1.95	0.00	12.00	38	1.00	0.00	3.07	14.48
M	2.83	2.27	0.00	10.00	44	2.00	2.00	0.79	0.55
FM	2.64	2.06	0.00	8.00	44	2.00	2.00	0.78	0.31
m	1.25	1.21	0.00	4.00	35	1.00	0.00	0.80	- 0.07
FM + m	3.89	2.63	0.00	12.00	49	4.00	4.00	0.79	0.72
FC	2.00	1.44	0.00	6.00	45	2.00	2.00	0.60	0.06
CF	1.83	1.37	0.00	5.00	45	2.00	1.00	0.60	- 0.44
C	0.17	0.38	0.00	1.00	9	0.00	0.00	1.81	1.33
Cn	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00	0.00	-	-
Sum Color	4.00	2.18	0.00	10.00	52	4.00	2.00	0.81	0.33
WSum C	3.08	1.77	0.00	7.50	52	2.50	2.50	0.73	- 0.17
Sum C	1.75	1.73	0.00	7.00	42	1.00	1.00	1.67	2.96
Sum T	0.04	0.19	0.00	1.00	2	0.00	0.00	4.99	23.84
Sum V	0.13	0.39	0.00	2.00	6	0.00	0.00	3.16	10.27
Sum Y	0.30	0.57	0.00	2.00	13	0.00	0.00	1.79	2.29
Sum Shading	2.23	2.04	0.00	9.00	46	2.00	1.00	1.63	2.68
Fr + rF	0.17	0.43	0.00	2.00	8	0.00	0.00	2.55	6.31
FD	0.45	0.70	0.00	2.00	18	0.00	0.00	1.25	0.23
F	12.23	6.05	2.00	32.00	53	12.00	9.00	0.99	1.67
(2)	5.26	3.22	0.00	17.00	52	5.00	5.00	1.49	3.48
3r + (2) /R	0.26	0.13	0.00	0.58	52	0.23	0.22	0.50	0.16
Lambda	1.55	1.38	0.13	6.33	53	1.08	2.00	1.97	4.00
EA	5.92	3.13	0.00	14.00	52	5.50	3.50	0.51	- 0.11
es	6.11	3.53	1.00	15.00	53	6.00	4.00	0.56	- 0.33
D score	- 0.02	0.72	- 2.00	2.00	53	0.00	0.00	0.03	2.83
Adj D	0.13	0.65	- 2.00	2.00	53	0.00	0.00	0.30	3.34
active	3.08	2.48	0.00	9.00	46	2.00	1.00	0.78	- 0.14
passive	3.72	3.00	0.00	12.00	48	3.00	1.00	0.83	- 0.01

表 1-2 非行少年の記述統計 (n=53)

変数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	頻度	中央値	最頻値	歪度	尖度
Ma	0.98	1.37	0.00	6.00	25	0.00	0.00	1.59	2.50
Mp	1.87	1.59	0.00	6.00	40	2.00	2.00	0.76	0.22
Intellect	1.13	1.49	0.00	6.00	28	1.00	0.00	1.46	1.55
Zf	13.49	5.55	6.00	35.00	53	13.00	10.00	1.78	4.37
Zd	-3.10	5.34	-15.50	6.00	51	-2.00	-2.00	-0.42	-0.41
Blends	2.42	1.82	0.00	7.00	46	2.00	1.00	0.56	-0.47
Blends/R	0.11	0.10	0.00	0.39	46	0.11	0.00	0.88	0.17
Col-Shd-Blends	0.49	0.61	0.00	2.00	23	0.00	0.00	0.84	-0.24
Afr	0.44	0.13	0.15	0.76	53	0.44	0.50	0.28	0.00
Populars	4.58	2.11	1.00	10.00	53	4.00	4.00	0.40	-0.22

に少年鑑別所の調査室で個別にロールシャッハテストを実施した。対象者は、保護観察、少年院といった処遇を決定する審判を1～3週間後に控えており、ロールシャッハテストは審判の参考にするための調査の一環として行われた。対象者への教示は、対象者の性格・行動傾向を把握し更生への方策について検討するための参考として心理テストを実施するという趣旨を、対象者の理解力に応じた言葉、表現で説明した。テスターは、対象者がテストに消極的な態度であれば、拒否してもよい(処遇を決定する上で不利益にはならない)ことを伝えることにしていたが、言葉又は態度でテストに消極的であることを伝えた対象者はいなかった。

3. コーディング

コーディングはExner (2001)に準拠し、形態水準の評定はExner (2002)の基準に従った。コーディングにあたっては、共同研究者2名で相互に確認し、意見が一致しない場合は3名による協議により決定した。

III. 結果

表1は、非行少年53名のプロトコルから得られたデータの一覧である。表2は対象者の基礎データとロールシャッハテスト変数の主たる指標の度数、比率である。

IV. 終わりに

結果を概観すると、ハイラムダの者が多い、FMが少ないなど、今村らによる研究結果と一致しているように見えるところがあるが、非行少年の特徴を数量的に明確にするためには同年齢の標準データと比較する必要がある。しかし、16歳から19歳の標準データについての研究はまだまだ乏しいので、今後の研究を待つて検討したい。

なお、本資料について考慮しなければならない点は、テスト状況が結果に与えた影響である。本資料の対象者は少年鑑別所で審判を待っている状況で、自らの処遇に影響力を持っている家庭裁判所調査官によってロールシャッハテストを実施された。本資料の対象者がテストに臨んだ態度は、例えば佐藤ら(1998)が一般成人のデータを収集した際に自発的に協力した被検者らのそれとは異なっていたであろう。本資料の対象者は、家庭裁判所調査官の評価を気にして防衛的な態度になったかも知れないし、本心ではテストは行いたくなかったが家庭裁判所調査官が言うので仕方なくテストを行ったかも知れない。ラムダが高いことなどは、このような検査態度が影響している可能性がある。

表 1-3 非行少年の記述統計 (n=53)

変数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	頻度	中央値	最頻値	歪度	尖度
(P)	0.42	0.60	0.00	2.00	19	0.00	0.00	1.16	0.39
XA%	0.71	0.10	0.42	0.94	53	0.70	0.65	- 0.02	0.94
WDA%	0.74	0.10	0.44	1.00	53	0.73	0.71	0.04	0.87
X + %	0.45	0.11	0.15	0.68	53	0.44	0.50	- 0.06	0.77
X - %	0.29	0.10	0.06	0.58	53	0.30	0.30	0.08	0.73
Xu%	0.26	0.10	0.00	0.50	52	0.27	0.28	0.03	1.02
S - %	0.26	0.25	0.00	1.00	38	0.23	0.00	1.15	1.42
Isolate/R	0.18	0.13	0.00	0.56	47	0.17	0.00	0.79	0.53
H	2.55	1.47	0.00	6.00	49	2.00	2.00	0.13	- 0.74
(H)	1.00	1.24	0.00	6.00	30	1.00	0.00	1.76	4.11
Hd	1.40	1.31	0.00	5.00	37	1.00	0.00	0.88	0.47
(Hd)	0.77	0.82	0.00	3.00	30	1.00	0.00	0.88	0.25
Hx	0.09	0.30	0.00	1.00	5	0.00	0.00	2.86	6.40
All H Cont	5.72	2.76	1.00	17.00	53	5.00	5.00	1.35	4.06
A	8.21	3.52	2.00	17.00	53	8.00	6.00	0.74	0.29
(A)	0.40	0.69	0.00	3.00	16	0.00	0.00	1.86	3.37
Ad	2.23	2.11	0.00	10.00	42	2.00	1.00	1.29	2.15
(Ad)	0.11	0.32	0.00	1.00	6	0.00	0.00	2.51	4.48
An	0.19	0.52	0.00	2.00	7	0.00	0.00	2.78	6.81
Art	0.68	1.03	0.00	4.00	22	0.00	0.00	1.78	2.87
Ay	0.34	0.55	0.00	2.00	16	0.00	0.00	1.39	1.06
Bl	0.21	0.49	0.00	2.00	9	0.00	0.00	2.41	5.30
Bt	2.53	2.05	0.00	9.00	44	2.00	2.00	1.03	1.23
Cg	1.45	1.49	0.00	6.00	35	1.00	0.00	1.17	1.49
Cl	0.09	0.30	0.00	1.00	5	0.00	0.00	2.86	6.40
Ex	0.13	0.34	0.00	1.00	7	0.00	0.00	2.24	3.12
Fi	0.66	0.83	0.00	3.00	25	0.00	0.00	1.14	0.66
Food	0.36	0.81	0.00	4.00	12	0.00	0.00	2.84	8.86
Ge	0.04	0.19	0.00	1.00	2	0.00	0.00	4.99	23.84
Hh	0.92	1.05	0.00	4.00	31	1.00	0.00	1.39	2.02
Ls	0.58	0.89	0.00	3.00	20	0.00	0.00	1.45	1.23
Na	0.40	0.72	0.00	4.00	17	0.00	0.00	2.83	11.43
Sc	1.81	1.65	0.00	8.00	41	1.00	1.00	1.32	2.72
Sx	0.02	0.14	0.00	1.00	1	0.00	0.00	7.28	53.00
Xy	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00	0.00	-	-
Idio	0.91	1.11	0.00	4.00	27	1.00	0.00	1.15	0.62
DV	1.51	1.60	0.00	8.00	36	1.00	0.00	1.59	3.93
INCOM	2.64	2.17	0.00	9.00	45	3.00	3.00	1.08	1.14
DR	0.11	0.32	0.00	1.00	6	0.00	0.00	2.51	4.48
FABCOM	0.40	0.93	0.00	5.00	12	0.00	0.00	3.18	11.93
DV2	0.15	0.36	0.00	1.00	8	0.00	0.00	2.01	2.11
INC2	0.08	0.27	0.00	1.00	4	0.00	0.00	3.31	9.30
DR2	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00	0.00	-	-
FAB2	0.02	0.14	0.00	1.00	1	0.00	0.00	7.28	53.00
ALOG	0.09	0.30	0.00	1.00	5	0.00	0.00	2.86	6.40
CONTAM	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0.00	0.00	-	-
Sum6 Sp Sc	5.00	3.14	0.00	14.00	52	4.00	3.00	0.91	0.49
Lvl2 Sp Sc	0.25	0.52	0.00	2.00	11	0.00	0.00	2.05	3.56

表 1-4 非行少年の記述統計 (n=53)

変数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	頻度	中央値	最頻値	歪度	尖度
WSum6	9.92	6.60	0.00	26.00	52	8.00	6.00	0.78	-0.08
AB	0.06	0.23	0.00	1.00	3	0.00	0.00	3.95	14.14
AG	0.23	0.51	0.00	2.00	10	0.00	0.00	2.22	4.35
COP	0.51	0.87	0.00	4.00	18	0.00	0.00	2.07	4.77
CP	0.02	0.14	0.00	1.00	1	0.00	0.00	7.28	53.00
GOODHR	3.45	1.91	0.00	8.00	51	3.00	3.00	0.65	0.23
POORHR	2.62	2.02	0.00	9.00	48	2.00	1.00	1.05	1.14
MOR	1.17	1.54	0.00	6.00	29	1.00	0.00	1.74	2.91
PER	0.47	0.87	0.00	4.00	16	0.00	0.00	2.20	5.18
PSV	0.30	0.54	0.00	2.00	14	0.00	0.00	1.62	1.84

表 2-1 非行少年 (n=53) の基礎データ, 主たる指標の度数, 比率

対象者についてのデータ									
性別				教育程度				罪名	
	男子	46	87%	中学卒業	19	36%		窃盗	14 26%
	女子	7	13%	高校在学	13	25%		道路交通法違反	13 25%
年齢				高校中退	17	32%		恐喝	7 13%
	16~17	31	58%	高校卒業	3	6%		傷害	4 8%
	18~19	22	42%	大学在学	1	2%		毒物及び劇物取締法違反	4 8%
								強姦	3 6%
								覚せい剤取締法違反	2 4%
								く犯	2 4%
								放火	1 2%
								強盗	1 2%
								麻薬取締法違反	1 2%
								暴行	1 2%
比率, パーセンテージ, 特殊指標									
スタイル								形態水準	
内向型		7	13%					XA% > .89	2 4%
超内向型		4	8%					XA% < .70	25 47%
不定型		11	21%					WDA% < .85	45 85%
外拡型		6	11%					WDA% < .75	29 55%
超外拡型		2	4%					X + % < .55	45 85%
回避型		29	55%					Xu% > .20	40 75%
回避-内向型		5	9%					X - % > .20	43 81%
回避-不定型		18	34%					X - % > .30	22 42%
回避-外拡型		6	11%						
Dスコア				FC : CF + Cの比率					
Dスコア > 0		7	13%					FC > (CF + C) + 2	3 6%
Dスコア = 0		38	72%					FC > (CF + C) + 1	11 21%
Dスコア < 0		8	15%					(CF + C) > FC + 1	12 23%
Dスコア < -1		2	4%					(CF + C) > FC + 2	5 9%
修正Dスコア > 0		10	19%						
修正Dスコア = 0		39	74%					自殺の可能性陽性	1 2%
修正Dスコア < 0		4	8%					HVI陽性	12 23%
修正Dスコア < -1		1	2%					OBS陽性	0 0%

表 2-2 非行少年 (n=53) の基礎データ, 主たる指標の度数, 比率

比率, パーセンテージ, 特殊指標					
Zd > +3.0 (オーバーインコーポレイティブ)	6	11%			
Zd < -3.0 (アンダーインコーポレイティブ)	24	45%			
PTI = 5	0	0%	DEPI = 7	0	0%
PTI = 4	2	4%	DEPI = 6	4	8%
PTI = 3	10	19%	DEPI = 5	11	21%
				CDI = 5	4 8%
				CDI = 4	17 32%
その他の変数					
R < 17	11	21%		(2AB + Art + Ay) > 5	1 2%
R > 27	10	19%		Populars < 4	14 26%
W > D	33	62%		Populars > 7	7 13%
Dd > 3	22	42%		P + (P) < 4	10 19%
DQv/+ + DQv > 2	18	34%		P + (P) > 7	7 13%
DQv > 2	12	23%		COP = 0	35 66%
S > 2	30	57%		COP > 2	2 4%
Sum T = 0	51	96%		AG = 0	43 81%
Sum T > 1	0	0%		AG > 2	0 0%
3r + (2) / R < .33	37	70%		MOR > 2	6 11%
3r + (2) / R > .44	4	8%		Sum 6 Sp. Sc. > 6	13 25%
Fr + rF > 0	8	15%		Level 2 Sp. Sc. > 0	11 21%
Sum C' > WSumC	10	19%		GHR > PHR	31 58%
Pure C > 0	9	17%		Pure H < 2	14 26%
Pure C > 1	0	0%		Pure H = 0	4 8%
Aft < .40	19	36%		p > a + 1	20 38%
Aft < .50	37	70%		Mp > Ma	28 53%
(FM + m) < Sum shading	10	19%			

文 献

浅野 正 (2005) : 少年非行 小川俊樹, 松本真理子編: 子どものロールシャッハ法. 金子書房, p.207-222

Exner, J.E. (2002) : Rorschach Form Quality Pocket Guide 中村紀子, 津川律子, 店網永美子, 丸山香共訳 ロールシャッハ形態水準ポケットガイド (第3版) エクスナー・ジャパン・アソシエイツ

Exner, J.E. (2001) : A Rorschach Workbook for the Comprehensive System Fifth Edition 中村紀子, 西尾博行, 津川律子監訳 (2003) ロールシャッハ・テストワークブック, 第5版. 金剛出版

藤岡淳子 (1997) : ロールシャッハテストによる行為障害のアセスメントと処遇計画の策定. 思春期青年期精神医学, 7, p.13-20

今村洋子, 紀恵理子, 藤岡淳子, 寺村堅志 (1993) : ロールシャッハテストによる中学生非行少年の人格特徴に関する研究 (I). 犯罪心理学研究, 31, p.98-99

佐藤 豊, 寺村堅志, 中村紀子, 藤岡淳子, 他 (1998) : 包括システムによるロールシャッハ・テストでの日本人一般成人の記述統計資料. 包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌, 2,1, p.74-78

* * *